

令和 7 年度 収入支出決算および事業報告（財産目録）について

令和 7 年度の収入決算額は 17 億 8,325 万 6,775 円、支出決算額 15 億 7,571 万 8,183 円、差引決算残金は 2 億 753 万 8,592 円となりました。

（一般勘定）収入の部

1. 令和 7 年度の平均被保険者数は 2,873 名で前年度より 16 名増加しました。平均標準報酬月額額は 37 万 6,869 円で、前年度を 3,524 円上回りました。年間の総標準報酬賞与は 57 億 6,646 万円でしたが、これを被保険者一人当たり平均にすると 200 万 7,123 円となり、前年度比で 1.2%の増加でした。

被保険者数が増加したことに加え、平均標準報酬月額と平均標準賞与額が増加となったため、健康保険料は合計で、2,891 万 3,063 円の増となる 16 億 9,636 万 8,030 円になりました。

国からの事務費補助金である国庫負担金は 38 万 3,637 円でした。

2. 調整保険料収入は、2,438 万 4,545 円となりました。昨年度より 41 万円の増です。調整保険料というのは上部団体である健保連へ納める健保組合間の財政調整事業の原資となる保険料です。また後に出てくる高額医療交付金は、この調整保険料を原資としており今年度も納めた調整保険料 2,438 万円より、戻ってきた金額（2,141 万円）の方が少なかったこととなります。
3. 繰入金については、頂いた保険料ですべての支出を賄えたため、積立金を取り崩さずに済みました。
4. 国庫補助金収入は、特定健康診査・保健指導補助金として 43 万円、高齢者医療支援金等負担金助成事業費として 1,057 万 9 千円が、それぞれ国より交付されました。
5. 特定健康診査等事業収入は、人間ドックに含まれる法定健診相当費用を、事業主に負担していただくもので、145 万 2,000 円を頂戴しました。
6. 出産育児交付金は、金額は 52 万 5,892 円でした。
7. 高額医療交付金は、一人の患者さんで 1 ヶ月当りの医療費が 150 万円を超えた場合、超えた部分について健保連から戻ってくるいわゆる健保組合間の再保険です。令和 7 年度は 2,141 万 4,100 円が交付されました。昨年度は 3,688 万円ですから 1,547 万円減となりました。
8. 雑収入は合計で 628 万 8,608 円でした。主な内訳は利子収入が 181 万 9,426 円、インフル集団接種時の自己負担金や、人間ドックの自己負担金である「施設利用料収入」が

437 万 1,800 円となっています。

以上によって収入決算額は、17 億 8,325 万 6,775 円となりました。

(一般勘定) 支出の部

1. 事務所費は健保組合事務局運営にかかる諸経費です。本年度は、4,800 万 2,027 円 を支出しました。本年度は、浅海さんの定年退職に伴う退職金と、基幹システムの入替えに伴う SE 作業費の支出により、前年度比 2,292 万 924 円増となりました。
2. 組合会費は組合会開催のための費用ですが、本年は対面での組合会を開催したため、6 万 4,590 円の支出がありました。
3. 保険給付費は医療費や各種給付金の支払いのための費用です。保険給付費の支出総額は 8 億 9,201 万 1,090 円と前年度比 4.4%増となりました。金額にすると 5,871 万円増です。令和 5 年度に初めて保険給付費が 8 億円を超えたばかりですが、令和 7 年度は 9 億円に迫る金額となりました。

月額 20 万円以上を要する高額医療患者は、金額で前年比 20 件増の 5,729 万 7,530 円となっています。参考までに本人の傷病名で高額だったものは血液凝固因子不全、脳血管障害、心臓疾患の順で、家族は小児成長不良、脳疾患、血液がんの順で高額な患者さんが発生しました。

付加給付費は決算額 1,793 万 3,100 円と前年度並みでした。付加給付費の主なものは、月 25,000 円以上の医療費窓口負担を還付する一部負担還元金や家族療養費付加金です。今後組合財政が更に厳しくなってきた場合、この付加給付の支給基準を見直すこともあり得ることは、申しあげておきたいと思います。

4. 納付金は 5 億 5,188 万円の支出で、前年度比で 1 億 199 万 4,913 円の大幅減少となりました。これは 2 年前の前期高齢者の医療費が見込みよりも低かったためですが、減ったとしても保険料収入の 35.0%を占めており、依然として重い負担であることに変わりはありません。
5. 保健事業費は各種健診等に要する費用です。

40 歳以上が受診する特定健診は、本人の受診者 1,697 名、家族の受診者は 346 名でした。特定保健指導についてはメタボ所見がある本人に対して、動機付支援 104 名、積極的支援 84 名について、渋谷正直先生による保健指導を実施しました。疾病予防費のうち、人間ドックは本人 218 名、家族 27 名で合計 245 名の方が受診しました。前年度

は 233 名でしたから 12 名増です。本人の生活習慣病検査は 1,880 名が受診しました。前年度から 21 名の減少です。

インフルエンザワクチン接種補助は、本人・家族併せて 682 名（同 29 名増）の方に補助金を支給しました。またインフルエンザの集団予防接種は、関東圏の大規模事業所と、大阪支社、名古屋支店において実施（接種者 989 名、同 25 名増）しました。保健事業費全体では 5,426 万 8,153 円と前年度比 609 万 408 円減となりましたが、主に広報誌「健保だより」保健指導誌「すこやかファミリー」を廃止したことによるもので、その他はほぼ前年度実績並みとなりました。

6. 還付金は、任意継続被保険者が再就職等により脱退した場合に、支払い済み保険料を還付したものです。
7. 営繕費は、事務所費の説明の部分にもありました基幹システムのサーバおよびクライアント PC、プリンターの入れ替えに伴う支出により 402 万 720 円となっています。
8. 財政調整事業拠出金は、収入の部の調整保険料収入を健保連へ拠出するための支出科目で、2,427 万 5,717 円を拠出しました。
9. 連合会費は、健保連など関係上部団体の年会費で 70 万 729 円の支出になりました。
10. 積立金は健保組合の T D B 出向職員のための退職積立金です。本年度は積み立ての必要がありませんでした。
11. 予備費は、事務所費や組合会費など、款という大きな予算科目の中で不足が生じたときに充当します。今年度は充当する必要がありませんでした。
12. 介護勘定繰入は、ありませんでした。

以上によって、支出決算額は 15 億 7,571 万 8,183 円になりました。収入支出差し引き 2 億 753 万 8,592 円の決算残金と黒字決算となりました。

(介護勘定)収入の部

1. 介護保険料は介護保険料率、第 2 号被保険者たる被保険者数（40 歳以上 65 歳未満の社員）、平均標準報酬月額および平均標準賞与額により算出します。当年度の介護保険料率は千分の 18、第 2 号被保険者たる被保険者数（40 歳以上 65 歳未満の被保険者）は 1,788 名（前年度 1,799 名）で 11 名減、平均標準報酬月額は 40 万 7,412 円（前年度 40 万 2,972 円）で、同比 4,440 円の増加となりました。
- 介護保険収入については、被保険者数が減りましたが、平均月額と平均標準報酬賞与が

増えたことで、同比 0.7%増となる 2 億 2,507 万 7,203 円となりました。

2. 法定準備金からの繰り入れは行いませんでした。
3. 雑収入は法定準備金の利子収入が 13 万 6,749 円ありました。
4. 一般勘定からの受け入れは本年度行いませんでした。

以上により介護勘定の収入決算額は 2 億 2,521 万 3,952 円になりました。

(介護勘定)支出の部

1. 令和 7 年度の介護納付金は、1 億 9,930 万 7,708 円と算出されましたのでこれを支出しました。また、任意継続被保険者を脱退した方への還付金 6 万 3,649 円の支出を加えた 1 億 9,937 万 1,357 円が支出決算額となりました。収支差引きは 2,584 万 2, 595 円の黒字決算となりました。

令和 7 年度の決算残金処分について

一般勘定

令和 7 年度の収入支出差引残金は 2 億 753 万 8,592 円となりました。

当組合の法定準備金の保有率は、現在 280%と余裕がありますので、任意積立金に 2 億 726 万 1,737 円を積み立て、9 万 628 円を財政調整事業繰越金、子ども・子育て支援金の前納分 18 万 6,227 円を繰越金として支出します。決算残金処分後の残高は合計で 10 億 4,992 万 173 円となります。

介護勘定

介護勘定の決算残金は 2,584 万 2,595 円です。介護勘定には任意積立金がありませんので、全額を法定準備金に積み立てたいと思います。これにより準備金保有率は 687%になります。決算残金処分後の残高は、1 億 1,939 万 4,147 円となります。

帝国データバンク健康保険組合財産目録

令和7年度末現在

1. 一般勘定

種 別		数 量	金 額 または 価 格	備 考
法定準備金	金員	支払基金委託金	11,605,000円	
		健保会館出資金	0円	
		銀行預金	472,741,024円	定期預金・普通預金
		金融債	0円	
		計	484,346,024円	
任意積立金	金員	銀行預金	560,915,365円	定期預金・普通預金
		金融債	0円	
		計	560,915,365円	
職員退職積立金	金員	銀行預金	638,057円	定期預金・普通預金
		計	638,057円	
その他財産	建物		0円	
	器具および備品		4,020,727円	
	その他		0円	
総計			1,049,920,173円	

2. 介護勘定

種 別		数量	金額または価格	備考
法定準備金	金員	銀行預金	119,394,147円	普通預金
		郵便貯金	0円	
		現金	0円	
		計	119,394,147円	
	合計		119,394,147円	